

2023 年フォーラム・ポーランド会議

ポーランドのポピュラーカルチャー

Polska kultura popularna

日時： 2023 年 12 月 2 日（土）10:30-16:10

場所： 駐日ポーランド共和国大使館多目的ホール

主催： フォーラム・ポーランド

協力： ポーランド広報文化センター

人数： 先着 120 名

言語： 日本語、一部ポーランド語からの逐次通訳つき

会費： 一般：2,000 円、大学学部生、高校以下の学校生徒：1,000 円

プログラム

午前の部： 10:30－12:30

受付開始：10:00

総合司会： 平岩理恵（Rie Hiraiwa）・フォーラム・ポーランド事務局長

開会の辞： 田口雅弘（Masahiro Taguchi）・フォーラム・ポーランド代表

歓迎の挨拶： パヴェウ・ミレフスキ（Paweł Milewski）駐日ポーランド共和国特命全権大使

* 記念撮影、各講演約 30 分、質疑応答約 10 分

11:10-11:50 講演 1： ポーランドのポピュラーカルチャー 加須屋明子

12:00-12:40 講演 2： ポーランドのゲーム パヴェウ・パフチャレク

昼食 12:40-13:40 *主催者側で準備いたします。

午後の部： 13:40－15:40

講演 3： ポーランドのヒップホップ 平井ナタリア恵美

講演 4： ポーランドのファッション・デザイン ダリア三浦

講演 5： ポーランドの食文化 サラーム海上

ミニリサイタル: 15:45-16:00

アレクサンデル・ヤニツキ映像上映＋薮田翔一作曲演奏

EDGE (7分) 弦楽四重奏曲 *2013年カジミェシュ・セロツキ国際作曲コンクール（ポーランド）での演奏・3位入賞曲

AfterImages(3分) 映像作家アレクサンデル・ヤニツキと作曲家薮田翔一のコラボレーション曲。

協力： たつのアート実行委員会

閉会の辞: ウルシュラ・オスミツカ（Urszula Osmycka）ポーランド広報文化センター所長・参事官

登壇者紹介

パヴェウ・ミレフスキ (Paweł Milewski) 駐日ポーランド共和国特命全権大使



1975年生まれ。1999年アダム・ミツキェヴィチ大学にて中国学修士号を取得後、1996年より首都師範大学（中国）、続いて1997年より廈門大学（中国）に留学。2003年ワルシャワ経済大学国際経済研究室研究課程（PG Dip）修了。1999年ポーランド共和国外務省入省。2000年よりアタッシェ、三等書記官としてアジア・太平洋局にてアジア・太平洋諸国問題に従事。2003年から2009年にかけて駐中華人民共和国ポーランド共和国大使館にて二等書記官、一等書記官、参事官として勤務。2009年よりポーランド共和国外務省アジア・太平洋局 東アジア・太平洋課長、2011年よりアジア・太平洋局副局長を務

める。2013年に駐オーストラリア・ポーランド共和国大使に就任する。この間、駐パプアニューギニア・ポーランド共和国大使を兼任。2017年ポーランド共和国外務省アジア・太平洋局局長に就任。2019年10月に駐日ポーランド共和国大使として来日。

ウルシュラ・オスミツカ (Urszula Osmycka) ポーランド広報文化センター所長・参事官



ワルシャワ大学日本学科卒業、専門は近現代日本史。1999年、文部省在外研修員として鹿児島大学で1年間日本語・日本文化研修、2002～2006年、九州大学法学部で学び、修士号（政治学）を取得。帰国後、在ワルシャワエジプト大使館、在ワルシャワ日本国大使館などに勤務。2009年、外務省のアジア・太平洋局に勤務。2011年、日ポ外交官交流プログラムに参加し、外務省欧州課でのインターンシップを修了。2012～2018年、駐日ポーランド大使館政治経済部で政治・報道問題、広報文化外交のプロジェクトを担当。2018年8

月より、外務省大臣官房参事官。2021年9月、東京のポーランド広報文化センター長に就任。英語、日本語、フランス語に堪能。

加須屋明子 (Akiko Kasuya) フォーラム・ポーランド副代表



1963年兵庫県たつの市生まれ。京都大学大学院博士後期課程単取得満期退学（美学美術史学専攻）。ヤギェロン大学（クラクフ、ポーランド）哲学研究所美学研究室留学。国立国際美術館主任学芸員を経て、現在、京都市立芸術大学美術学部・大学院美術研究科教授。博士（文学）。専門は近・現代美術、美学。主な展覧会企画は「芸術と環境—エコロジーの視点から」1998年、「死の劇場—カントルへのオマージュ」2015年、「セレブレーション：日本ポーランド現代美術展」2019年など。2011年-2020年龍野アートプロジェクト芸術監督。2022年よりたつのアート実行委員会代表。主な著書『ポーランドの前衛美術—

—生き延びるための「応用ファンタジー」』（創元社、2014年）、『現代美術の場としてのポーランド—カントルからの継承と変容』（創元社、2021年）など。

パヴェウ・パフチャレク (Paweł Pachciarek) アダム・ミツキェヴィチ・インスティテュート



多摩美術大学特別研究員(2021-2023年9月)。文学博士(大阪大学)。インディペンデント・キュレーター、美術評論家、時にパフォーマー。アダム・ミツキェヴィチ大学(ポズナン、ポーランド)日本学専攻修士課程修了(2012年)。草間彌生の文学と美術との関係を扱った博士論文により大阪大学で博士号取得(2021年)。比較文学、美学、美術史の現代的問題に焦点を当てた研究を行い、社会関与型的美術活動や、フェミニズム、クィア・スタディーズ、歴史社会的再解釈など社会批判の分野の課題を研究対象とする。日本国内および海外、とりわけヨーロッパで現代美術のキュレーションを手がける。2017年よりポーランド共和国文化・国家遺産省の傘下機関で、ポーランドの文化・芸術の普及活動を行うアダム・ミツキェヴィチ・インスティテュートの日本デスクを担当。主な著書『中欧・東欧の文化事典』丸善出版、2021年(分担執筆)、『Kusama Yayoi czyli obsesja kropek(草間彌生—水玉強迫)』Tako、2015年。

平井ナタリア恵美 (Hirai Natalia Emi) 執筆家、翻訳家



東京外国語大学ロシア・東欧課程ポーランド語学科卒業。現職はNGO広報。2013年よりブログ「Muzyka Polska〜ポーランドの音楽が好き♪〜」を開設し、ポップスやロック、ヒップホップなどのジャンルを中心にポーランドの音楽を紹介している。2014年発売『中央ヨーロッパ現在進行形ミュージックシーン・ディスクガイド』寄稿。2018年にポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリーのヒップホップを紹介する音楽ガイドブック『ヒップホップ東欧』を発表。音楽記事を度々寄稿するほか、ポーランド音楽をかけるDJとしても活動する。ポーランドと日本のミックス。

Muzyka Polska〜ポーランドの音楽が好き♪〜 <http://muzykapolskamuzyka.blogspot.jp>

Muzyka Polska twitter https://twitter.com/Paula_muzyka

サラーム海上 (Salam Unagami) DJ／中東料理研究家



1967年生、群馬県高崎市出身、明治大学政経学部卒。中東やインド、ヨーロッパを定期的に旅し、現地の音楽シーンと料理シーンをフィールドワークし続けている。NHK-FMのワールドミュージック番組「音楽遊覧飛行エキゾチッククルーズ」のナビゲーター。J-WAVEの「Oriental Music Show」では2017年日本民間放送連盟賞ラジオエンターテインメント番組部門最優秀賞を受賞。『美味すぎる世界グルメ巡礼』『MEYHANE TABLE More! 人がつながる中東料理』ほか著書10冊。世界最大のワールドミュージックエキスポ「WOMEX 2023」にて日本人初となる審査員「7 SAMURAI」を務める。

<https://www.chez-salam.com/>

ダリア三浦 (Daria Miura)

掲載準備中

アレクサンデル・ヤニツキ (Aleksander Janicki) 映像作家



クラクフ（ポーランド）生まれ。クラクフ美術アカデミー卒業。数多くのマルチメディア・インスタレーションを手掛け、写真や映像作品、とりわけ双方向的な作品で知られる。2005年のあいち万国博覧会では建築家のクシシュトフ・インガルデンと共にポーランド館を手掛けた。ポーランドのテレビ局のために映像やアニメーションも提供。即興演奏集団HiQの設立者の一人。龍野アートプロジェクト2016, TAPinKra-kowに招待出品、作曲家の薮田翔一と共に映像と音楽のコラボレーションを歴史ある醤油蔵にて実現した。クラクフ在住。

薮田翔一 (Shoichi Yabuta) 作曲家



兵庫県たつの市生まれ。2011 年東京音楽大学大学院作曲科修了。第 70 回ジュネーヴ国際音楽コンクール作曲部門優勝。ウィーンコンチェルトハウス 100 周年作曲賞最優秀作品賞。2013 年 SORODHA 国際作曲コンクール 1 位入賞。2013 年カジミェシュ・セロツキ国際作曲コンクール 3 位入賞。第 3 回クロアチア国際作曲賞 NEW NOTE2 位入賞。第 78,79,80,81 回日本音楽コンクール 4 年連続 2 位入賞。トロンボーンピース・オブ・ザ・イヤー2011 作曲賞。2012 年京都フランスアカデミーメシアン賞。2014 年第 3 回高松国際ピアノコンクール課題曲委嘱作曲家。たつの市文化賞。兵庫県芸術奨励賞。文化庁長官表彰（国際芸術部門）。神戸新聞にコラム執筆、ジュネーヴ音楽院にて作曲のマスタークラス、東京大学「学藝饗宴」

ゼミナールにて講義、NHK カルチャーラジオにて「現代音楽講座」の講師を担当。作曲した曲はこれまで世界各国で演奏されている。小倉百人一首で歌曲（全 100 曲）をピアノ伴奏、弦楽四重奏伴奏で作曲するなど日本文化の発信につとめ、大型放射光施設 SPring-8 の実験行程を音楽にした曲が雑誌 Pen+ の付録 CD になるなど、活動は多義に渡る。龍野アートプロジェクトで 2013 年より参加、2014 年より音楽監督。東京在住。

松岡麻衣子 (Maiko Matsuoka) ヴァイオリニスト



桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業、同大学研究科修了。アンサンブル・モデルン・アカデミー（IEMA フランクフルト音楽・舞台芸術大学）にて研鑽を積み、これまでに様々な現代音楽演奏団体で、世界各地の音楽祭やコンサートに出演。日本現代音楽協会主催演奏コンクール「競楽 XI」2 位。近現代作品の初演及び再演、録音を演奏活動の主軸に据える。クラリネット三重奏団フィディアス・

トリオ奏者。現在、東京成徳短期大学非常勤講師。

<https://www.maikomatsuoka.com/biography/>

篠原智子 (Tomoko Shinohara) ヴァイオリニスト



桐朋学園大学音楽学部弦楽器科卒業。同研究科修了。全日本学生音楽コンクール全国大会中学校の部第 1 位。摂津音楽祭にて金賞、大阪府知事賞を受賞。日本モーツァルトコンクール入賞。名古屋国際音楽コンクールにて奨励賞、ヤマハ賞を受賞。

これまでに、日本センチュリー交響楽団等と共演のほか、セイジ・オザワ松本フェスティバル、水戸室内管弦楽団等に出演している。これまでに、久保田良作、辻井淳、小栗まち絵、名倉淑子、堀正文の各氏に師事。現在、東京都交響楽団団員。

迫田圭 (Kei Sakoda) ヴィオリスト



東京音楽大学卒業。東京音楽大学大学院に給費奨学金を得て入学、修了。

東京音楽大学コンクール入選、第 28 回市川市新人演奏家コンクール弦楽器部門最優秀賞。プロジェクト Q 第 10 章に参加。

若手作曲家の新作初演にも数多く携わっており、サントリーサマーフェスティバル内の芥川作曲賞選考演奏会ではソリストを務める等、精力的に活動している。

現在、おーけすとら・びとれ座にてコンサートマスターを務める他、ヴァイオリン、ヴィオラ奏者として多方面で活動している。

北嶋愛季（Aki Kitajima） チェリスト



チェリスト、保育士、ライフコーチ。2018 年よりバロックとモダン 2 台のチェロによる独奏演奏会を東京・フランクフルト・ミュンヘンで定期的に開催し、より広く深いチェロの魅力を伝えているほか、国内外の現代音楽祭・演奏会に出演するなど精力的に活動。出身の千葉県浦安市ではアンサンブル ciel として親子向けワークショップや演奏会も行う。今秋よりライフコーチとしても活動を開始。

<https://www.akikitajima.com/>

田口雅弘（Masahiro Taguchi） フォーラム・ポーランド代表



1956年生まれ。環太平洋大学経済経営学部教授、岡山大学名誉教授。専門は、現代ポーランド経済史、ポーランド経済政策論。1984年、ワルシャワ中央計画統計大学（SGPiS＝現在のワルシャワ経済大学）経済学修士学位取得卒業。1988年、京都大学大学院経済学研究科博士課程後期単位取得退学（京都大学博士）。その後、岡山大学経済学部教授、ハーバード大学ヨーロッパ研究センター(CES)客員研究員、ポーランド科学アカデミー(PAN)客員教授、ポーランド科学アカデミー(PAN)客員教授、ワルシャワ経済大学正教授、岡山大学学術研究院社会文化科学学域教授等を歴任。主要著書：『ポーランド体制転換論 システム崩壊と生成の政治経済学』（御茶の水書房、2005年）、『現代ポーランド経済発展論 成長と危機の政治経済学』（岡山大学経済学部、2013年）、『第三共和国の誕生 ポーランドの体制転換一九八九年』（群像社、2020年）。

<https://mstaguchi.wixsite.com/index>